



可認物便郵補三第省信遞日 六十二月二十年一十三治明
行發日五十日一回二月每 行發日五十月八年五十三治明

區部本

政教時報

第 八 十 五 號

オーバーリオン
▲社會小説▼

待山生

古今

佛弟子小傳
▲海外雜報▼

近角常觀

羅馬教府の構成
信界

池山榮吉

監獄未來の夢物語
講究

真運閑人

◎總選舉終了◎宗教問題と新代議士◎模範的選舉
◎獨乙皇帝とローマ法王等
雜錄

〔海外事時〕

社會の根底的改造
公益事業としての労働紹介
社會

〔同誌〕

論說

〔同誌〕

大日本佛教徒同盟會綱領

- 一、佛教本來の面目を發揮して、各自の信念を確立し國民の道徳を涵養し品性を陶冶する事。
- 二、佛教の本旨に基きて人道の大義を唱導し精神的結合によりて國民の一致を鞏固にし國家の隆盛を企圖する事。
- 三、佛教護持の責任を全ふし健全なる宗教界を形作る事。
- 四、各宗僧侶を獎勵し其學徳を高めしめ又從來の惡弊を改善せしむる事。
- 五、公認教制度を調査する事。
- 六、社會問題を講究して慈善事業を起し社會の改善を企圖する事。
- 七、佛教の精神に基ける諸種の教育特に普通教育女子教育を獎勵して善良なる家庭を形作りしめ又社交を融和せしむる事。
- 八、積極的方針を取り實業道徳を鼓舞する事。
- 九、教界の組織及儀式をして時勢に順應せしむる事。
- 十、社會に於ける一切の迷信を斷絶する事。
- 十一、殖民傳道を獎勵する事。
- 十二、佛教の光輝を發揚し其感化を普く世界に光被せしむる策を講ずる事。

政 教 時 報

社會の根底的改造

我國現時の社會は不真面目なる時代はなかるべし、政治界にあり、實業界にあり、將た宗教界にあり、腐敗に腐敗を重ね、姑息に姑息を加へ、表面一見儼然たる形式を備ふるが如しと雖、内心毫も操持する所なく、其行動云爲一も眞摯の氣風の微すべきものなし、唯外界境遇の變遷に従ふて飄々乎として身を世上風波の間に處するの徒のみ、極言すれば我國社會腐敗の原理は其社會を形成するの各分子が根底的に腐敗せるにあり、各社會の精神の萎靡枯死せるにあり、結果を退て主義を顧みざるにあり、殊に道徳上に於て嚴格なる實行を爲して人をして秋霜烈日の感あらしむる如きは遂に毫も見ることからざらむとす、人は我國將來に於ける經濟的破産を憂ふ、而して吾人は精神的破産の怒濤既に國民の頭上に澎湃たるを見て、轉々寒心に堪へざるものあり。

言ふ勿れ吾人を以て奇矯の言を弄して世を罵るものなりと、又言ふ勿れ嚴肅の思想を以て世上を悲觀するもの也と、須らく襟を正しくして各社會の現状を審察せよ、政治家は何が爲めに政治を爲す、其位を得るが爲めか、其權を得るが爲め

か、苟も其堅持する主義を實行し、其目的濟世利民にありとせば、其位を得むとし、其權を攫取せんとする固より其所也、然れども其位を得んとする手段に於て、其權を攫取する順序に於て、既に業に自ら其主義を傷け、其所信に反背せる行爲に出づるもの、滔々として皆是也、此の如くして權位を得て主義を行はむといふ、矛盾も亦甚しき哉、皆是權位其物を目的とするもの、却て其主義を犠牲にすることなしと云ふ可からず、此の如き政治家を以て組織せられたる政治界は果して眞面目なる政治界と云ふ可きか、眞摯なる行動、毅然たる操行を望み得べきか、吾人は其表面の整々堂々たるにも似ず、其精神の腐敗墮落せる今日の如き激甚しきを知らざる也。

宗教界の事、吾人深く之を言ふに忍びざる也、宗教の眞髓は信仰也、之を形式に實現するもの儼然たる宗派たり寺院たり教會たり、而して行爲の上にあらはるゝや嚴格なる道徳となり、社會の救濟となり、人格の修養となり、品性の陶冶となる、若し極端に言はしめば現時我國の宗教界に於て眞面目の意味に於て何れの所に其面影を認め得べきか、天下嚮々として宗教を憂へ、道徳を唱ふ、之を憂へ、之を唱ふるの人、既に自から其眞面目を攫取せず、今日の宗教界は盲人の相導いて斷橋の下に墮るが如し、宗教界の混亂蓋し今日の如き甚しきは無し、吾人は確かに將來に於て希望の光明赫々たる者あるを信するもの也、吾人は、信念の地下に磅礴たる者あるを

感するもの也、然れども未だ東方の微白を示さざる也、萬人關中に彷徨して其適歸する所を知らざる也、苦しむべし、憂ふべし、天に叫ぶべし、地に泣く可し、最も神聖なるべき宗教が最も腐敗し、最も光明あるべき教界が暗澹たること、恐くは今日の如く激甚しきを知らざる也。又此の如き政治若くは此の如き宗教を評する、世の所謂教育家、學者なるものを見るに毫も感服すべきの點を發見せず、彼等は他を評することを知る、自ら行ふことを知らざる也、彼等は他を論ずることを知る、自ら信ずることを知らざる也、而して其本領たる教育及び學問の事にありて、其主義の確立せざる、其位置の爲めに汲々たる、其所信の堅實ならざる道徳を嚴守せざる、社會に感化なき、何ぞ他の政治界、宗教界と撰ぶ所かある、之を要するに我國現時の社會は政治となく、宗教となく、教育となく、學問となく、眞面目の氣風蕩然として地を拂ふて空し、我國現時の忠實に此に在り。

然らば如何にして此社會を改造すべきか、曰く他なし、之を其根底より改造すること也、根底より改造すと云ふは決して一時の運動によりて消極的に破壊するの謂にあらず、徹頭徹尾健全なる積極的方針を以て社會の各分子を根底より改造すること也、單に形式の變更にあらずして實質を改造すること也。

近世醫學學理上一新紀元を開きたる獨逸解剖學者の泰斗

功益なき洵に其所也、看よ政界に於て屢々政黨の改造を謀り、内閣の交迭を行ふと雖、單に形式の變更に止りて毫も其細胞實質の改造を見ず、宗教界亦同じく多年紛々擾々として常に事絶ゆるなしと雖、畢竟形式組織を改良するのみにして其實質たる各個細胞に至りては毫も變化を見ず、腐敗せるものは如何にするも腐敗せるもの也、之を縦に列するもの之を横に並ぶるもの、之を方形に組織するもの之を圓形に組織するもの、細胞の改造せられざる限りは、眞面目の意味に於ける改善は覺束なし、是れ吾人が根底的の社會改造を主張する所以也。

然らば如何にして健全なる分子を作り、如何にして新細胞を繁殖し第二の政界、第二の教界を形式すべき根底を形作る可きや、是實に根本的の實際問題也、予は斷言せむ、彼の榮ゆるものをして榮えしめよ、砂上に築かれたるの樓臺は遂に其久しきを保つ可からず、彼の腐敗するものをして腐敗せしめよ、腐敗極まりて始めて清明の天地は開かるべし、唯吾人が現時の急務とするもの、生命とするものは新進精銳の青年が彼の腐敗を感染せず、彼の虛榮に誘惑せられず、堅實なる志操を有し、清淨なる社會を形作り、歩一步、其立脚地を定め、其地盤を固くせよ、大磐石上各個堅固なる煉瓦石を以て着々積み立てられたる殿堂は世上の風波を嘲り、惡魔の襲來を笑殺せむ、而して此の如き堅牢なる地盤立脚地とは果して何ぞや曰く宗教の信仰是也。

ウヰルヒョー博士は、細胞説を創唱し、身體は畢竟個々の細胞の組織より成るものにして、從來身體各部の病と稱したる所のものは、決して各部の病にあらずして、之を組成する細胞自身の病たることを明らかにせり、氏か此發明は醫學界上一大光明を放ちたり、而して皆に醫學界のみに貢獻せしむるらずして直ちに氏は自ら之を政治上の原理に應用し、細胞を以て各個人とし、身體を以て國家とし諸機關の組織を以て社會各部の組織と比較し、氏は自ら政界に於て一方の雄將として醫學界に於ける如く昨年退隱に至るまでは又政界の明星たりき、今若し氏が思想を應用し來りて我國現時の社會に於ける病根たるものを察するに政治宗教教育學者所謂各部の病なるものは實に各部を組織する所の各個の細胞自身が病めるなり、腐敗せるなり、パチルスに匹敵せるなり、若し夫れ細胞分裂を以て其各部機關繁殖すとせむか、益々其腐敗を傳染し、其パチルスを遺傳し、遂に底止する所なからむとす、既に腐蝕其極に達する細胞は亦如何ともなすべからず、是特に健全なる新細胞を以て根底より改造せざるべからざる所以也。

從來世人の社會上の改善を策するもの多くは形式の改良にして實質の改良にあらず、組織の改良にして分子の改良にあらずる也、是大に不可なり、猶、彼の身體各部の病なるものは、細胞自身の病なることを悟らざるが如し而して其腐敗せる細胞を用ひて屢々組織を變更し、形式を改むと雖、何等の

彼佛陀を信するものは、中心居然として佛陀の聖意に安住するもの、天下を奮ふて彼に向ふも彼は泰然として其所信に殆すべし、彼佛陀を信するものは滿身肅然として佛陀の至誠に感泣するもの、天下の富を以て彼を誘ふも彼は森嚴にして毫も犯さるゝなかるべし、彼佛陀を信するものは凜然として佛陀の大勇猛心によりて激勵せられたるもの、大火三千世界に滿つるある彼猛烈として進むべし、彼佛陀を信するものは油然として佛陀の大慈悲心によりて鎔融せられたるもの、百萬の怨敵毒炎を吹きて彼に向ふも彼哀々慈悲の涙を垂れて忽ち春風平和の世界を開闢すべし、嗚呼信仰なる哉、信仰なる哉、信仰は從容動かざる大地の如く、信仰は群生を濕すこと大水の如く、信仰は罪惡を燒くこと大火の如く、信仰は意志を猛烈ならしむること大風の如し、言ふ勿れ吾人を以て徒らに理想的の空言を爲すもの也と、看よ古來の開宗者は實に燎原の一點火にして遂に信仰を以て社會の根底的改造を實現せしものにあらずや、吾人は此信仰の靈火を以て彼の腐敗せる社會的細胞に當せるパチルスを燒き清め、佛陀の生命を寓せる個々の新細胞を以て社會を根底的に改造せむと欲する者也。

公益事業としての労働 紹介

(宗教家、慈善家の好事業)

英の哲學家ロツク氏は千六百九十八年時の政府に建白して曰く。眞正の貧民救助は無職者に職業を授くるにあり、假に此保護方法によりて衣食する窮民十萬ありとせば、一人一日の所得僅に一片つゝとするも、尙一年後には十三萬磅の所得となり、八年の後には英國は百萬磅以上の富を増加するを得べしといへり、労働者を保護して適當の業務を興ふるとは、獨り貧民救助の目的を達するのみならず、併せて國家の利益たることは殆ど疑なき所なり。

第十八世紀末葉以來實行上に勢力を占めたる、個人主義を基礎とせる所謂自由經濟上學説は、政府の干渉を打破し組合の特權を除去せば、労働缺乏の問題は釋然として自ら永解するものと固く信じたるに拘らず、歴史は全く之に反し一場の夢想に過ぎざりし。所謂自由競争の行はるゝに及んで労働缺乏の程度は却て甚しく、遂に夫の社會主義者の共産的經濟學説を唱道する輩をして、労働缺乏は資本的生產に伴ふ害毒なりと絶叫せしむるに至りぬ。

過度の生産、流行の推移、通商條約、海關稅の變更、機械

論げんとする労働紹介も亦其一なり。而して此労働紹介の制たる、半、豫防的性質を有する點に於て他の事業と稍々其趣を異にするものなり。

所謂積極的社會政策の中で近時最も熱心に攻究せられつゝあるものは労働紹介の問題なり。是れ労働缺乏を救済する良策にして且つ失業労働者の墮落を豫防する最捷徑なりと信ずればなり。獨逸の大工業家ドクトル、メーラー氏の統計によれば、年々獨逸にては凡五百萬人の労働者が常に住所を轉じ決して一定の場所に留まることなし、而して此際彼等は幾日かは全く就職せずして空しく時間を浪費せざるべからず、假りに職業に従事せざりし間が一週間續くものとして、一週間の賃銀平均十二馬克とすれば、即一ヶ月の所得六千馬克といふ多額の損失に上るなり。而して此外に往々口入營業者の奸策に陥りて困難を招く労働者の損害が附加せらるゝとせば、莫大なる損失といはざるべからず、此統計はもとより正確なるものにあらざるべきも、以て労働紹介者の改良が如何に社會經濟上に影響を來すかを窺ひ知るに足る。併しこの労働紹介の制たる現に存在する職業に對して労働の需用供給を媒介するに止まり、敢て新事業を企るにあらざるなり。

方今廣く泰西に行はるゝ労働紹介の方法を見るに、大體組織的によるものと否らざるものとあり、組織的なるものの中には労働紹介を營業とするものと、自衛的の事業とするもの

の改良、及び戰爭等に因る諸種の經濟上の恐慌、自然界の現象殊に氣候の變遷、及び人口の増加は社會全般を通じて労働者の缺乏を招致したる原因となり、屢々勉勵なる労働者を驅りて過失なきに其業を奪ひ、爲めに一家を擧げて言ふべからざる苦境に沈淪せしめ、其結果彼等をして不名譽なる貧民救助を受ける人とならしめ、若は浮浪乞丐の群に投ずるか、然らざれば去りて悪事をなすの已むなきに至らしめたるものにして、之に依りて生ずる社會の經濟上將た道德上の損害は幾何なるや知るべからず。

之に對して彼れ共産的社會主義の主張する所によれば、一の國際的共産社會を形作りて、人民全体の需用を統計的に計算して生産の程度を之に應ぜしめ、以て經濟的恐慌の因て起る根源を塞ぎ、労働缺乏の憂を未發に防がんとするにあり。かゝる高尚なる理想はたとへ遠き將來と雖、殆ど豫想しがたき所にして空中樓閣を築くよりも尙難しとせざるべからず。然らば如何なる方法を以て之を救はんとするか、歐米各國に於て現今行はれつゝある眞面目なる方策は主に事後の救済を目的として計畫したるものにして、固より空理一片の事にはあらざるなり、試に其種類を列擧すれば、労働者殖民地、流浪者作事場、労働院(貧民救助を目的とするもの)、労働缺乏保險、及び民間に仕事なき時國家及地方團體に於て與ふる労働即ち所謂豫備労働の如き、其重なるものにして、今此にと、公益事業とするものとの三種あり。組織的ならざるものの中には労働者自身が奔走して直接傭主を訪ひ、或は親屬朋友等に週旋を依頼するものと、新聞紙等の廣告を利用するものとの區別せらる。營業としての労働紹介は即傭人口入業をいふ、自衛的労働紹介とは同業組合の組織にして、是には労働者の組合と資本家の組合によるものとあり、而して公益事業としての労働紹介は宗教的及び慈善的組合に於て之を爲すものと、國家若は地方團體に於て之を行ふものとの種類あり。

組織的方法によらざる労働紹介の不完全たることは敢て多言を要せざるも、營業としての労働紹介もまた其目的口入業者の利益にあるを以て、其手数料の如き甚だ廉ならざるなり殊に諸種の弊害其間に生ずることは免れざる所也。千八百九十五年普滯西政府の調査によれば、口入營業者の總數五千二百十六人の中、六百三十二人即ち一割強は前科者なりしといふに由て見るも、彼等に労働紹介を一任することの甚だ危険なりと云はざるべからず。佛國に於ても口入業者取締の極めて嚴重なるを見ても、裏面に幾多の罪惡の潜伏せらるるかを知らるに足らむ。

次に労働者の組合による労働紹介は、直接當事者の施設に係るものなるを以て、動もすれば我田引水的に流るゝことは數の免れざる所にして、所謂階級戰爭の盛んなる今日にあり

ては、兎角他の一方の當事者たる資本家の疑致を招く虞ありて十分に其信用を博することは容易の事にあらざるなり。資本家の組合による労働紹介も亦同一の理由によりて労働者を満足せしむるの結果を収むるに甚だ難しとす、加之、今日は等の組合の網羅する所は労働者若くは資本家の幾分に止まり其全体に及ぼさざるを以て、縦し其事業が好結果を奏し得るとするも、其組合以外の者の爲には別に適當なる労働紹介の制を設くる必要ある也。斯く論じれば最も健全に最も有効なる設備は之を公益事業に待たざるべからず、近時労働紹介に關する諸種の改良意見が多く此點に集中するは蓋し偶然にあらざるべし。

抑この事業の起因は、從來の方法即ち口入業者若くは同業組合に依る労働紹介の不完全にして且つ弊害の多きを認め労働者を救はんか爲に起りたるものにして、清廉、潔白、親切、公平を旨として専ら公益を計るを以て大主眼とする所なり。此目的を以て宗教的慈善的組合の設立せられたるは、近々數十年來の事にして、獨乙にありてはネットガルトの労働紹介所(千八百六十五年設立)の如き其最も古きもの一なり。而して千八百八十三年に設立せられたる伯林労働紹介所は現存の組合中最も著しきものにして、千八百九十五年の統計に依ると二万三千五百七十三の労働申請に對して、一萬七千九十五の紹介をなせり。同年の調査にかゝる普羅西の慈善的組

合の労働紹介所の總數は百四十三ありて、其中百一の紹介所の合計は十三萬四千八十一の申請に對して三萬五千二百七十の紹介をなし、宗教的組合の總數は二百四十一にして二十萬六千九百九十八の申請に對して四萬五千六百三十五の紹介をなしぬ、而してこの宗教的組合の中、最も著しきは伯林の新教とケルンの舊教にして前者は四千、後者は二千の紹介をなしたり、蓋し盛大なりといふべし。

國家若くは地方團體による労働紹介の事業の起りは一層最近の事にして、千八百八十八年瑞西のベルン市に於て始めて此事業起りたる也、而して獨乙國內に於ても漸く之に倣ふ事となれり、之と同時に該制に對する諸種の意見が發表せられ、中にもラウテンシュラーガーは地方團體をして労働紹介者に當らしむべきことを主張し、メーラーは更に進んで其上に國家の設置に係る中央本部を設けて地方監督の任に當らしめ、各地方より労働の需要に關する報告を徵集し其結果を特別の新聞紙に公表せしむべしと主張せり。之に反してコルツエーは労働紹介所は公益を目的とする組合に一任すべきことを主張し、フロインドの如きは該組合に保護金を給付すべきも決して其事業に干渉すべからずと痛論したり。プロイセン、バイエルン、ウエルテンベルグ等の諸邦が地方團體による労働紹介の制を奨励する方針を取りたる爲め、現下該制は頗り増加し來りて遂に労働紹介の公法的組織を見るに至るべき

形勢に立ち至れり。

諷て我國の現状を見るに所謂組織的労働紹介とは云へ、傭人口入業者の外になく、新聞廣告の利用は近時漸く行はるゝに至りたるも、之を倫敦の著名なる十五新聞紙上に於ける一日の廣告件數、職業を與ふる方二千二百二十二、求むる方千二百七十九(千八百九十三年六月廿一日商務廳調査)とあるに比すれば其如何に幼稚なるかを知るに足る、殊に傭方も傭はるゝ方も等しく可成桂庵の手を経ざるを一般に希望するを見て傭口入業者の如何に不親切にして無責任なるかを推測せらるゝを得べし。或桂庵の如きは一旦或處に口入したるものを教唆して更に他に奉公せしめ以て其者より數々手数料を貪らむとするものあり、かの所謂田舎出るものが都會に來りて他に頼る處なきまゝ、仕方なく桂庵を宿とし遂に彼等の喰物となるか如きは吾人の屢々耳にする所なり、加之、我が傭人口入業者なるもの、大多數は下男下婢の周旋を爲すに止まり、特種の職業を與ふるとは絶てこれなく、稀れにこれあるも實に不完全たるを免れず、而して特種の職業に従はんとすれば勢ひ自ら奔走せざるを得ず、其間勘なからざる日數は徒消せらるゝ也、一旦其希望の地位を得るも所謂霜枯れなる年内に於て、其仕事の途切れる季節に際しては他に適當なる職業を容易に發見し得ざる爲め空しく手を拱して坐食するの已むなきに至るもの比々皆然らざるはなし。傭人口入の弊害

彼が如く、不供、不完全なる此の如くにして他に之を補充すべき何等の設備もなし、夫の自衛事業若くは公益事業としての労働紹介の制未だ起らず、其他労働者殖民地、流浪者作事場豫備労働等の法制も亦未だ其計畫あるをきかず、斯る状況の下に一朝經濟界の恐慌に遭遇せば、彼労働者の困迷殆んど其極に達し、子を賣る者、車夫となるもの、立ん坊となるもの、罪を犯すもの、乞食するもの、餓死するもの、自殺する者等思むべく悲むべき出來事の續々現はるゝに至るへきは智者を待つて後に知るべきにあらず、對労働欠乏策の上より我が労働紹介の現況を觀察すれば人をして轉た寒心に堪えさらしむるものあり、思ふてこゝに至れば吾人は公益事業としての労働紹介の施設が現下の急務なることを絶叫せんとするもの也、に公益事業としての労働紹介の施設はそれ如斯く急務なり。吾人は切に世の宗教家、慈善家の進んで之れが施設に當る人々を望むものなり。比較的單純に、比較的廉價に、比較的實行に易くして而も社會を利益すると頗る大に、百利あつて一害なく、功多くして勞少きものは即ちこの事業なり、而して該事業たるや性質上宗教家慈善家の手にあらざれば施設し能はざるものなりと同時に、その成否は一にまた宗教家慈善家の好個の責任問題なり「街路に彷徨する者幾千人なり」と同時に一方には手不足を訴ふる聲を聞く」とはこれマルクスの言にあらざるや、此の言の事實となるや否やは、一に労働紹介の制の不完に係る也。

社 會

總選舉の結了

總選舉は結了せり、選舉法改正の結果として頗る靜謐の間
 之を結了せしは稍々賀すべきが如しと雖、其裏面に入りて
 之を檢し來れ、醜言ふ可からざるものあらむ、蓋し是れ警察
 の外部的制裁を以て之を抑壓せしに過ぎずして、毫も内部
 道義の制裁存せざればなり、或は外部の制裁を以て壓せしだ
 け、内部に弊害を生ぜしやも知る可からず、人或は今回選舉の
 靜謐たりしを稱す、然り靜は乃ち靜なり、從來の如く、血雨
 を降らし、格闘を事とするが如き輩なかりき、是大に可な
 り、然れども政見に言論に、主義鮮明、旗幟堂々として争ふ
 こと少きは寧ろ恨事と云はざる可からず、何んとなれば是
 裏面に叩頭主義を以て相争ひたることを表明するものなれば
 なり、噫、嚴格なる意味に於ける立憲政治の成立夫れ遠き哉。

宗教問題と新代議士

今回の總選舉に於て標榜する問題少きにも拘はらず、獨り
 宗教問題のみは全國到る處盛んに宣言せられたり、吾人は之
 を以て一進歩と稱するに躊躇せず、吾人借々歐洲の政界を察
 するに獨り中央黨あり、佛に舊政黨あり、何れも政界の一半
 を壟斷して其宗教的政見を行ふ、然れども我國現時の狀態を

察するに信念の圓熟せざるの恨ありと雖も、其の宗籍を檢す
 るに何れも皆佛教徒を自せらるべきもの、特に其一を擧げて
 他を貶するの要を見ず、此に於て宗教問題に於ては地方團體
 若くは候補者自ら標致公言するに一任したり、近畿、江濃、
 尾參、北陸九州一帶の如き其最たり。甚しきに至りては平素
 聊か基督教徒に類せる人も亦佛教徒を以て標致するに至れ
 り、之を要するに今日特に佛教的一政黨を樹立する必要を視
 ざる所以のものは、廣き意味に於て何れも佛教徒を以て目す
 るを得べければなり、然れども果して其節義に於て、其操行
 に於て、其主義に於て特に宗教問題の起りたる時に於て佛教
 徒たるの實を示すや否や之を實際的事實に徴せむとす、政府
 者亦吾人公平の態度に鑑みて、漫りに、人心の激昂を來すが
 如き舉を再するなかれ。

模範的選舉

天下紛々、徒らに叩頭主義と黄金政策を以て競争是れ日も
 足らざる間に於て、清廉潔白、泥中の蓮たるの概あるもの神
 鞭知常氏の選舉とす、氏は遂に其所信の方法を厲行して之に
 殉するに至れり、同氏は初期議會已來何等の運動を爲すこと
 なく、推舉無爲にして常に當選されしが、今回は地方の利害
 問題を以て反對派が其地盤を破壊するあるも、氏は毫も之を
 顧みずして曰く、予は從來地方有志家に信認せられて代議士
 たりしに、今更に進んで信認を強ゆるも心に潔からず、且つ自

ら狂人の狂を學んで故郷をして黨争の戰場たらしむるに忍び
 ずとて、郷里の有志者が屢々急を告げて或は政見を發表せん
 ことを求め、或は推薦状を送れと哀訴し來るも、冷然として
 容れず、余の政見は初期議會以來の行動に徴して知るべく、
 余は人の推薦に依てまで、代議士たるを願はずとし電報を以
 て運動を謝絶し却て氏自身は同志の競争を調停し、若くは他
 人の援助に赴きて席暖かならず、偶々私かに援けむとするも
 のあれば、其志にあらざるを言ひて之を峻拒し、加之、約束
 の得票二三百を同志に譲り、遂に落選の不幸を見るに至りし
 といふ、蓋し氏は其結果の成敗を顧みずして正義を勵行した
 るもの、眞個に整實なる君子人の行動と謂ふ可し。

海 外 時 事

獨逸皇帝と羅馬法王

六月十九日獨逸皇帝カール皇帝と羅馬法王ピオ
 ー五世の演説をせられたるが、今其要旨を、い摘て左に
 誰カール皇帝の如き歴史的に於て今昔の感に打たれぬものはなからず、
 古來の歴史を觀察せば我本國はカール皇帝と重大なる關聯を有するものであ
 る、カール皇帝は實に獨逸皇帝の擁護者である、カール皇帝は即ち此處に椅子を
 立てた處である、うして此偉大なるセルマンの君主は遂に古羅馬皇帝の位を承
 繼し羅馬帝國を相續することになつた、これ實に始めて歴史にあらはれたる
 セルマン民族の能力を明に認めたるものといふてもよからず、當時ローマ皇帝
 の位は全く委靡として振はなかつたが、此の勢あるセルマン人のあらはれたる
 に由りて更に萬國史上光彩を添えることになつた、而してローマ皇帝の職務と
 セルマンの主位とを結付ることは至難であつた、カールは世界的帝國を愛ふる
 爲めにセルマンの民族を眼中に置かない、彼は世界的帝國を維持せん爲めにセ
 ルマンを念頭にかけなかつた、斯くして漸く獨逸國及國民は委靡不振の境に陥

るた、今や異りたる帝位が成立して獨逸國民には再び皇帝が興へられた、
 其帝國は獨逸國民の自身に戰場に於て手に銀を握りて帝冠を得られたのであ
 る、帝國の旗は高く空中に飄々としてゐる、この帝國は以前と異なる任務を有
 す、外部に對しては國境の外に出てす即ち内部に於て十分に準備をなし他日の
 潛勢力をつくらむ爲め敢て力を國外に致さざる次第である、かくして始めは帝
 國の勢力微弱なれども年々帝國自体は鞏固となりそして凡ての方面より受くる
 信用は益々かくたく、強き軍隊は歐羅巴の保障となる、吾々は獨逸國民の性格に
 從て内部に於ては無制限に任務を盡くさればならぬ、
 我言語は海を超へて其範圍は擴まり、或學問及研究に於ても亦然り、新たなる
 研究の範圍は獨逸語に於て少しも欠くるとはならない、そして吾々は此の大任務を
 正當に盡くさんせば即ち此帝國の成立したる根本基礎即ち吾々祖先の質朴敬
 神、及び高尚なる道德的觀念あることを忘れてはならぬ、私は諸君の教俗たる
 を問はず、國民が宗教を維持するといふことによつて私を助けられんことを諸
 君に待つのである、セルマン民族の道德的基礎を維持せん爲めに共同して働く
 ことは宗教の力によつて行はるゝ而して宗教は新教の別を問ふ必要はない、
 朕はこゝに列席の教會を代表する諸君に一の報告ある、幸にローマ大將も居ら
 るが、私が聖父の祝賀式に差遣したものである、ローマ大將が聖父に祝詞を
 陳べた時に聖父は左の意を私に取りつけと彼に命ぜられた、

歐洲諸國の中で規律あり秩序あり、教會を重し而してカトリック教徒を妨げず、
 自由信仰に從て生活をなす所のものには獨逸帝國である、これ我が(ローマ法王)
 獨逸皇帝に謝する所である

是が即ち私は新舊兩教并立して大なる目的即ち敬神の念を維持せればなら
 る所以で、うして何人も其生命を宗教の基礎に置かれんことを望む云々
 記者曰く、全体ローマ法王が獨逸皇帝に對して、やうな事は意外の事である、
 古來ローマと獨逸は犬猿も當ならぬ國で現に二十年前普佛戰爭して千八百八十
 年頃迄は所謂開明戰爭なる激烈なる政府とカトリック教との争ひがあつて互に惡
 感情を抱かれて居る、併し近來は獨逸政府とローマ政府と近接してある形勢
 がある、けれどもローマ法王より、其の發言を賜はるは洵に意外であるといは
 ればならぬ、ソコ新聞の批評を見るに、面白く、面白い先づ
 新教側の新聞は一面には之が爲めに氣味惡るき感を感じてゐる、一面には獨逸

が、是迄舊教に對して壓制を加へたるが如く見ゆるは全く虚構である。唯し立て

る。舊教は稍々狼狽の体にてローマ法王が云ふ事はドームも信じられぬ、法王の

誤りを傳へたであらふ、併し皇帝が法王の言葉を信したる上は從來の壓制を一

日と早く除いて貰ひたいといふて皇帝の言を利用してゐる

社會主義の新聞の如きは皇帝は外部を制限して内を強くする英國のチャンパ

の取りてゐる帝國主義と正反對であるからドゥッガ言行一致を望むべきである

④ 耶蘇寶物開帳 アーヘンの舊教本山では七月十日より廿四日迄珍しき

四大寶物を開帳して一般の人に鑑覽せしむる、四大寶物とは

第一 耶蘇の生母マリヤが耶蘇を生みし時の衣服

第二 耶蘇のうぶき

第三 シヨンプラストの殺された時に包みし衣服

第四 耶蘇の磔刑の時の衣服

この外に本山の内部にゆくときは、また／＼色々の物が並立されてゐる、マリ

ヤの腰巻、ヤソの襪、ヤソの縛せられし繩、水を飲ませられし海綿の断片等数へ

きれない程ある、カール大王の骨もある、此等の寶物は大王の一部を除いては是

さいふ證明すべき書類も何もない、傳言によればカール大王が諸方から集算した

ものであるといふ位にて是さへ證據はない、恐く後世の附會であらふ、そして此

の寶物に付いて色々の迷信が附着して居るさうだか、よく日本と類似して居るで

はないか、

● 佛國に於ける教會問題 共和政治の三代將軍たるアルテッタ、

ルソー氏内閣議長を職を辭し、コンプ氏新に其後を承けて立ちたるは、實に一

ヶ月の前なりしに、佛國下院は蚤く既に暗雲を漂はして、何時狂瀾の捲き來るや

も計られぬ形勢を呈せしこその面白けれ、

雜 錄

監獄未來の夢物語

第二回 (監獄俱樂部)

筑 漣 閑 人

監獄と社會とは成べく密接の關係を結付けるのが必要なの

で、監獄最後の目的と云へば結局囚徒をば生存競争の烈しい

大きな社會の生活に馴れしむるに外ならぬ、此目的を達す

るのには何んでも監獄生活をして社會生活の狀態と同一なら

しむることを努めねばならぬのである、夫れ故に成るだけ監

獄の規模を大きくして千人は愚か二千人も三千人も要す

るに一つの社會を構成するに足るだけの多數人員を拘禁する

やうにして行く／＼は監獄の外堀などは悉く取拂つて囚徒で

以て獨立の市町村を組織するに至らしめたいのである此理想

革命後に於ても、一時没收せられたる教會の財産は、再び善男善女の喜捨に由て

追々恢復せらるゝの傾向にして、特に其寺院所屬土地の増加は、免稅其他の關係

より永く政府の苦む所なりき、是に於て共和政府は頻りに其多數の力に由りて、

僧侶の勢力を殺さんことに心を用ゐたりしが、亦一方には民間多數信徒の反抗を

懼れて、斷然たる處分に出る能はざりき、然るに前内閣總理アルテッタ、ルソー

氏は、昨年を以て、宗教學校取締法案なるものを議會に提出し、遂に之を一個

の法律として發布するに至れり、此法案に由れば、宗教學校は皆新に政府の認可

を経べきを規定したるを以て、教會に取ては本より一大打撃たり、而して今年六

月下旬に至て、再び同法履行の訓令を發したる結果として、百三十五の宗教學校

は、即時閉鎖を命ぜられ、其教席と六千の生徒(軍に女子)とは共に、憲兵の爲め

に校外に放逐せられたり、本より其中には幾多の尊敬を値すべき貴婦淑女も多か

りしに、彼等が一時間の猶豫もなく追ひ出され、其手荷物家具の類は皆路上に抛

げ散らされたる如き、頗る識者の驚愕する所なりき、

此の如き暴行は、下院右黨の等しく憤慨する所にしてテニー、コンヤン氏の質

問なるものは即ち其憤りを代表せし叫聲なりき、曰く政府は果して此の如くにし

て、基督教を佛國の全土より放逐せんとするかと、喝采は右黨の間に湧けり、ゲ

ロー法師、亦立つて幾多其家の處女を貧民亦は精神喪失者を驅逐するさ同一の

方法を以て、其實家へ送り届けたる暴行を指摘し、政府は果して基督教に向て戦

を闘かんとするの決心なりやと結びしかば、右黨の中には頻りに政府の信任を問

ふべしと教團くものすちあるに至れり、

内閣議長コンプ氏は即ち立て答へて曰く、政府が此非常處分を取るに至りし前

には、其閉鎖を命ぜられたる學校に向つて、幾度か連に政府の認可を受くべき旨

を諭したるに、彼等は其學校が教會の所屬にあらずして、唯一私人が教會より其

る、尙ほ泥長君は頃日監獄新聞で金製の大勳賞牌設定の議を主張したのと、一つはまた保守俱樂部の首領章で矢張是れも銀製である、其外の一つが名譽紀念の銅牌では、先年當監獄に於て懲罰二課長排斥の輿論が喧かましかつた時に運動委員として斡旋其宜しきを得、終に排斥の目的を達したと云ふ功勞に依り一同の囚徒より感謝の紀念として贈與せられたるものである、其所謂懲罰二課長の事蹟に就ては色々面白き噂があつたが餘り長くなるから是れは省くとして抑も此事の起りと云ふは秘密出版を摘發して一面、將來俱樂部の解散を嚴命し一面、其二三の首領株を懲罰に付したるの不法であつたとのとである、將來俱樂部——保守俱樂部——俱樂部とはまた抑もそんなものである、是れから此質問に對する泥長君の説明を筆記して見よう、監獄に於ける俱樂部の組織は是れまた既に前世紀に於て亞米利加の監獄などでは之が實行を試みた所であつて、其最又は其昔し岳洋とか云ふ男の獄事談などに依り我國にも早くから紹介せられて居たのである、所が、是れも亦た新聞と同様に時の頭、冥當局者に顧みられざりしが爲めに僅かに京坂邊の少しく物の別つた典獄の支配の下にある一二の監獄で或る一部分の囚徒に依れば其監獄は階級法の一餘件たるものらしく即ち其上をば一週一回級にある者の優遇法の一餘件たるものと推測せらるゝ位の程度に於て茶話會と稱し麥湯に煎餅類を振舞ひ官民？協同互ひに胸襟を吐露して一席の世間噺に社交的快樂を興へ

今日は午後七時より各俱樂部の聯合紀念會が當監獄の大會堂で開かるゝ都合であるから望みとあらば余は君を賓客として本會に招待するの名譽を持つとのことであつた
好機逸すべからず俱樂部の實況を自擧することの出来るのは勿怪の幸ひ直ちに泥長君の招待を受けしたのである
最初余は泥長君に誘はれて典獄室を辭するの時、泥長君の注意で時計や懐中物の類はすべて典獄に預けることにした大勢の囚徒の内には随分油斷のならぬ奴があつて殊に拘摸の親分株など來ては如何に此方て要領しても何時の間にか必らず拘り取られて仕舞ふので看守などが手袋や手帳を掠めらるゝことは殆んど日常のことである、ツロ二三日前には典獄室へ白晝泥棒が忍入つて典獄が虎の子のやうに大事にして居つたマニラの上等葉巻煙草を三箱ほど盗み去つたと云つたと云ふことだが是れは多分今夜の大集會に用ふるが爲めであるふとの説である

第三回 (貸家制度)

中央看守所から左へ向つて第一監と表札のある翼の南側で、第五番目に當るのが是れが則ち泥長君の監房である、尤も監獄内では階下にある監房のことをは監房と呼はずしてヒロー即ち事務所となへるとなつて居る、第一監第五房などの名稱も行く／＼は何町何番地と改良するやうになるだらうとの咄であつた、泥長君の事務所へ這入て見るとソレハッ

しめた事蹟ある位のこと、其發達は頗る遅々たるものであつたが漸く數年前より一般に普及して著るしき好成績を見るやうになつた次第である、俱樂部の數は大小とも併せて十五ほどあつて中には純然たる政黨的性質を以て組織せられて居るものもあるが多くは單に社交的を目的として組織せられて居るものである、新たに俱樂部を組織せんとする場合に必ず一定の條件を備へて典獄の認可を要するの手續であるがすでに成立したる以上は全く俱樂部の自治に任せ其内容のことに就ては何人と雖も一切之れに干渉することを許さぬのである、俱樂部員にして若し俱樂部の名譽を毀損するが如き行爲ある場合には直ちに之れに脱會を命ずるのであつて其脱會の處分を受けたるものは再び何れの俱樂部にも入會するの資格を失ふことになる、其れ故苟くも俱樂部の一員に加はる所者は凡て紳士？の体面を保つことに自ら進んで大に努むる所があるので、是れが所謂勞せずして感化の効を奏する手段たるを得る譯である、俱樂部の會合は通例一週一回であつて其れが開會は多く夜分である、音樂もあれば落語もあり時々道化芝居の興行を催さるゝこともある、會合の席では勿論酒も飲めれば料理も好みに任かせてなんでも取寄せる自由が出来る、但し目下の處ではまだ金錢を賭して骨牌を弄することの公許を得るに至らぬのであつて自由派の新聞などでは殆んど黨議として熱心に公許論を主張して居る所である、幸にして

のかゝつたものであらふが能くマア一厘一毛まで喧かましく云ふ今の帝國議會が此費用の支出を是認することだと疑つて聞いて見たら是れは何も國庫の厄介になるのではなく反て國庫に取りては財源増加の一手段となる譯になると云ふのは、マリ此部屋は造作無し、の貸屋のやうなもので、此に住むものは月に若干の家賃を拂へ造作はすべて自辨で尙ほ相當の家賃税までも賦課せらるゝとのことである、家賃なども南側と北側、ソレから交通の不便などに依つて著るしい差額があるので泥長君の部屋などは目貫きの場所でもあり日當りの善い所を以て見ても餘程高い家賃を拂ふものと想像せらるゝ、家賃も年々せり上つて來るさうだか兎に角空室の容易に出來ないには諸囚甚だ難義をして居るとは尤ものことだ、監房翼の廊下は悉く厚手の奇麗な毛氈を以て敷き詰めてあるのだが是れこそ少くも贅澤に過ぐる感じを持つたのである、然かし之れがなくして囚徒の安眠を保護することが出來ないさうで衛生上最も必要の設備に屬するものの一だとのことであつた、尤も今では昔しやうに看守などが夜中も構はず無遠慮に踏音を鳴らして廊下を巡回し歩行かやふなことは無いのださうだ、夜中の巡回がなくなつては如何にも不要ではなかつたか尋ねたら何が不要！逃走でもする者があつてはせぬかの心配だら

うが、今時夜陰を利用して逃走を試むるなど云ふ馬鹿者はありはしない逃走でも仕度と思へば白晝、大手を揮つて塀を乗り越すことも出来れば表門から抜け出すことも容易である、昔し小五月蠅く夜警の巡回を勵行した時だからと云つて是れはホンのお阻ひ同前のことで唯だ儀式的に一定の時間巡回して歩くと云ふに過ぎないので中には壁に倚りかゝつて高聲で熟睡して居る者もあれば、居睡りしながら無意識に足を運ばせて、突き當つた欄干を監督の巡回者と取り違へて平身低頭託まり奉つて居るなどの奇談も少くない、其證據には睡眠の隙で看守の懲罰を受ける者は非常に多かつたもので、實際また夜警の目を忍んで監房を抜け出した者も數へ切れぬほど澤山あつたと云ふことである、こんな實況であつたものだから其時代の當局者は逃走を恐るゝこと甚しく殆んど全力を之れが防遏に傾注した模様であるが戒護を厳しくすればするほど看守の力を弱らすの結果を見るべきは當然であつて遂には夜警の役人に目を開けて物の十分間と我慢の出来る者がないやうになつて仕舞つて益々逃走の數が増へたのみか世間の泥棒仲間にも此内幕が知れ渡つたので今度ではアベコベに外から監獄のなかへ移りに遣入り込む者が段々多くなつて來て監房要領の爲め内の方から錠を下ろすの必要を見るに至つたやゝな仕儀である、逃走があれば典獄が懲戒處分を受けるので其頃の官報には毎日殆んど其沙汰を見ざるはなしで

ある、懲戒の文言は千遍一律いつも平生の監督其宜しきを得ざるの致す所云々とあるのだが、可笑しいことには逃走の當日典獄が腹下しで引籠つて居つたとか御用の筋で一守留守に非ずとして不問に付せられたと付ふ奇談がある、同人も流石がに典獄に迷惑を掛けるが氣の毒と思ふてか同じ逃走するにも成るべく典獄不在の時を撰んだ様子である、是等が則ち囚人氣質とも云べきであつて、事情を知らぬ世間の者の内には容易ならぬ大罪人をば三人も五人も逃がして而かも之れに對して典獄が責任を負はぬは都合なりなど、非難を試みた者もあつたらしい逃がすまいとすると思ふのは人情である、昔しの監獄學者などには此理屈が分からなぬかつたものと見へる、今日ではもし夜警の巡回などなくても事實の上には逃走を試むる者の如きは絶無である、尤も囚徒仲間には盛んに賜暇旅行と云ふことが行はるゝので是れがツマリ一種の逃走！モデルネ、エントワイフングとも云ふべきである、賜暇旅行とは自分のは勿論他人の分までも買ひ込んで闕席裁判に對する故障、自首又は民事訴訟の提起を理由として他の裁判所々在地の監獄に押送せらるゝことであつて……監獄新聞などの廣告欄に電話浪花七百幾番の呼聲善きもの讓渡し度しとあるは闕席裁判賣渡の符牒であるとのことだ……善い加減の處で益倉の押送巡查さては蠅蟻籠のやうな警察

留置場の隙間を見て苦もなく繩抜けを試むる所の方法である、當監獄でも目下賜暇旅行中の者が五十何人と云ふ多數であつて自由黨の首領川邊音松とか云ふ男なども其一人である、世間では懸賞までもして其踪跡を探索して居ることであるが監獄の政友などの間には絶へず消息が通じて居る模様である。

講 究

羅馬教府の構成

池 山 榮 吉

羅馬舊教の教理に依ると、羅馬教主は世界に於ける神の代表者である。されば、彼は教會權力の唯一の源泉であつて、總ての教監、教師の權は、孰れも皆其支流に過ぎない。從て教主は何れの時、何れの地を問はず、苟も教會統治に關すること、何事にまれ命令し、執行し得る者であつて、各地の教監、教師は之に對して絶對に服従すべき義務を負ふて居る、千八百七十年「グチカン」Universal II Episcopate會議の議定に係る、所謂「世界教監」とは、即この教主の地位を表明したもので、羅馬教府とは、教主が「世界教監」として、依て以て其の統治權を行ふ機關の總稱である。

教府の職員中、最も重要な地位を占め、教主の輔弼なる者は參議 (Kardinal) である、參議は教主の任命する所で、其數は教主シクスツース第五世(千五百八十六年)以來七十人と定つて居て可成各國民から採用するとなつて居る。參議は羅馬に住所を定むべき義務のあるものであるが、往々外國の教監に參議の位を賜はるとがある。埃、佛、西、葡の四國は、其國在住の各一人の教監を參議に指定する事が出来る。但し教主は之に拘束されることはない、此推薦に因て參議に任せられた者は之を稱して王冠參議 (Kron kardinal) といふ。

參議は、教會組織の上に於て、教主の次に位する最高の教職で、臺下 (Eminentissimi) なる敬稱を有し、今日では爵相當の待遇を享受して居る。(古は選舉侯相當の位を有し、中には王の上に位したるものもあつて、獨逸皇帝の如きも、第一及び第二の參議の間に位した者である)。

參議は教主の統治權の行使に參與するの外、諸種の特權を有つて居る。其重なるものは、教主を選舉するの權、宗大會に列するの權、大使に任ぜらるゝの權等である。

各參議は、在羅馬の一致教會の長として、皆其教會の名を以て已れの稱號として居る。而して彼等は相寄つて一の團體(法人)を組んで、最年長の參議が其長となつて居る。それから年々參議中より選定される主計 (Camerlengo) は、團體所屬の財産を管理して其收入を各參議に分配する、各參議は之に

所轄教會及び爾餘の職祿の收入を合して、其歳入四千「スクデー」(「スクデー」は二圓餘に當る)に満たざる時は、教主の金庫より、其不足額の補給を仰ぐと出来る。

參議は一、參議總會に於て、二、委員會其他事務局の役員として、教會統治に參與する。

總會(Consistoria)には公會(Consistoria publica)と秘密會(consistoria secreta)とありて、何れも教主が其會長として國要の都度之を開くと、なつて居る。抑もこの總會は昔は度々招集されて、重要な事件は、總てこゝで審議されたものであつたが、一には斯る事件を總會に於て議定するの困難なると、一には事務が益々多端に赴くに依り、段々と特別の事務局若くは委員會が増設されると、之に連れて追々總會招集の度数が減じて行て、今日では、特に重要な事件を議了せん爲め、若くは特に莊嚴なる儀式を執行せんか爲めに催ふ參議の集會で、要するに、當該事件に重みを附ける形式的のものとなつて居る。

秘密會では所謂名譽事件と政治事件とを議するとなつて居て、名譽事件とは參議の任命、教監の任命、大使の任命、教監管區の創廢分合、大教監禮服(Pallium)の授與等に関する件で、是等の件に就ては、教主は先づ參議の意見を聞いて、然る後親から裁定を下す。政治事件とは、即教會の國家に對する關係例(ば宗教條約(Concordat)の訂結、其他國家との

交渉に關する件であるが、是等の件に付ては、多くは鄭重なる準備を要するものであるから、之を總會の議に附するとは稀で、總會は寧ろ所謂親達(Allokution)に依て當該事件に關する報告若くは教主の意見を儀式的に發表する手段となつて居る。而してこの親達なるものは教會全体に對するものであるから、新聞等にも公にするのが例となつて居る。

公會は純然たる盛儀の執行を目的とするもので、參議が之に出席するのは、事を議する爲ではなくて、單に高位顯職を帶ぶるものとしてである。尙此會には教主及び參議の外、高等の教師、外國公使、羅馬市吏員等も參列すると出来る。而して此會に於て爲すべき事項は、新任參議の就任式、聖號の授與、帝王と教主との會見、新任公使の謁見等であるが、時にはまた教主の重大なる親裁の報告を爲すともある。例へば、千八百六十七年、ピウス第九世の宗大會を招集する親達はこの公會の形式を以て發表された。

斯の如く參議總會は儀式の執行にあらざれば、主として事件の終局の議定を目的とするものであるから、之が準備として豫め委員を定めなければならぬ。また總會に於ては、所有事件を議定するに出来るから、其管轄以外の事項に付ても、別に委員を設ける必要がある。で、初めは各事件毎に委員を撰定してやつて居たが、終には一定の事件の爲めに多數の常置委員會が設けられることとなつた。委員會(Congregatio)

は決定の權を有する參議、參議を補佐する參事(Praelat)及び屬吏から構成されて居つて、參議の員數は各委員會の事務に應じて教主之を定め、教主若くは教主の任命する委員長(Kardinalpraefect)が會の指揮を司ることとなつて居る。

委員會は兼議總會の準備たるものを除き、最高の審級として確定の議決を爲す所て、左に掲ぐるものは其の重なるものである。

一、總會準備委員會(Congregatio consistoriales)は、總て總會に於て議定すべき事件の準備を爲す所て、教主親から委員長となつて居て、其下に八名乃至十二名の參議が委員として働いて居る。

二、政教事件委員會(Cong. super negotiis Eccle. sine exteriorioribus)は、總て國家教會關係事件を審議する所て、參議の員數は一定して居ないが、少くとも八名以上である。而して教主の出席なき場合には教府の宰相(Kardinal = Staatssecretar)が委員長に就く。

三、教會特權委員會(Cong. immunitatis Ecclesiasticae)は、國家に對する教會の特權の擁護を目的とするもので、若干の參議(千八百六十五年には二十人)の中より一人が委員長に任せられる。

四、教義判定委員會(Cong. inquisitionis sive sancti officii)は教義の統一を維持せん爲め異義(Haere = sis)を審判する

所て、參議の數は教主の認定を以て之を定め(千八百六十五年には十三人)、教主親から其の長となつて居る。

五、圖書審檢委員會(Cong. indicis librorum prohibitorum)は、信仰及び義に有害なる圖書を査定し、例外的場合を除き、之が所持、閱覽を禁止する所て、時々其の禁止せられたる圖書の表を公にする。參議の數は是また教主の認定を以て定まり、其中の一人が委員長となる。(千八百六十五年には二十人)。

六、トリエント會議々定事項解釋委員會(Cong. concilii Tridentini interpretum)は、近世の舊教會の組織の基礎となる、トリエント會議の議定に關する總ての疑義を確定的解釋を與ふるを目的とし、舊教會の法律發達の上に尠からぬ影響を及ぼす所て、參議の數は他の委員會を比し頗る多い(千八百六十五年には四十人)、而して委員長は參議の一人を以て之に充てることとなつて居る。

七、教儀委員會(Cong. rituum)は、總て教儀に關する件を取扱ひ、また聖號授與に關する調査を爲す所て、若干の參議(千八百六十五年には二十二人)の中一人が委員長となる。

八、傳道委員(Cong. de propaganda fidei)は、總ての外國傳道を指揮監督する所て、若干の參議(千八百六十五年には二十一人)の中一人を委員長とし、一人を經濟委員

長とする
九、赦免、寶物委會 (Cong. indulgentiarum et sacramentorum) は、赦免狀の附與及び遺物審査を司る所である。
十、監督委員會 (Cong. super negotiis episcoporum et regni latinum) は、教監及び「オルデン」教師の監督を爲し及び兩者間の争議を裁定する所である。若干の参議 (千八百六十五年には三十三人) と一人の委員長あると他と異ならない。

以上の外まだ種々の委員會があるが、是等の委員會は、多くは教主シクストゥス第五世 (千五百八十八年) に依て創設され、否らざれば其後に於て成立つたものである。委員會以外にも、尙其前より存在して居た種々の事務局がある、併し是等の事務局の権限は、多くは新に起つた委員會の方に移つたので、随分面白い歴史のある者はあるが、今日では最早餘り重要ならざるものとなつた。従て、其の事務局の構成の如きも、一人の参議が長となつて居る局もあるが、主として参事が事務を執ることになつて居て、中には参事が局長の椅子を占めて居る所もある、而して現存の事務局の種類に従て大別すると、一、司法局、二、恩惠局、三、文書局の三つとなるが、要するに、司法局の権限は、大部分、委員會の方に移つたので、同局は殆んど全く有名無實のものとなり、恩惠局は、教主の特權たる非常准允の件を司り、文書局は教主の

教書及び外交文書の調製、保管を司る役所である。

教府の職員には一、参議、二、参事、三、屬吏の外に、四、狀師 (Advokat) 五、辯護士 (Prokurator) 六、補佐人 (Expeditior) 七、仲立人 (Agent) 八、公證人なる者があつて、通例この四以下を總稱して、狹義の教府員 (Curialen) とす。中に就き参事は参議に次で重要な職員で、單獨に若くは合議體の一員として、或は参議の補佐として、或は獨立に、一定の權限内に於て、教主統治權の行使に與り、狀師は一定の報酬を得て、判事若くは當事者の囑托に依て、法律上の意見を陳述し、辯護士は専ら當事者を代理して訴訟を引受け、補佐人は狀師及び辯護士に種々器械的の補助を爲し、仲立人は或る事件に關する斡旋、報告等の依頼に應ずるを以て其任務として居る。又教府職員の意義を更に廣義に解せば、宮中の役員、其他二三の者も之に加はり、殊に教主の使節も亦其中に入るが、これはまた後日に譲ることゝしやう。

信 界

佛弟子小傳 (三)

尊者優樓頻羅迦葉。尊者伽耶迦葉。尊者那提迦葉。近角 常觀

阿若憍陳如等の五人は苦行を勵行せし意志強き實行家である、次に阿輪陀を初としての一群は富豪なる商人にして、感情の濃かな信仰家らしい、而して今描かんとする三迦葉は所信の非常に堅い修道家である彼等は、火を神聖視して之を祭祀する婆羅門であつた、頭上に髪を結びて螺髻を冠したる故に之を螺髻梵士と名けた、此三人は兄弟にして何れも澤山の弟子を有した、第一兄の優樓頻羅迦葉 (Ururiva Kāyapa) は五百人の弟子を有し、第二の那提迦葉 (Nadi Kāyapa) は三百人の弟子を有し、第三の伽耶迦葉 (Gaya Kāyapa) は二百人の弟子を有して居つた、かくの如く多人数の歸向を集めて非常に勢力があつて、人が皆彼は阿羅漢を得たものと見做して居つた、夫故釋尊がベナレスから、弟子を四方へ傳道に遣はされた後、自身はウルヒルグの方へ來られて、先づ彼等を濟度することに着手せられた。

優樓頻羅迦葉は尼連祥河 (Nairanjana) の畔に苦行をして居た。他の二人の迦葉も同じ河の少し下流に住して居た、佛は先づ優樓頻羅迦葉の處を見舞はれて、一夜彼の火堂に宿せんことを求められた、火堂と云ふは火を祭りてある堂である、所が此火堂には猛惡なる毒龍が顯はれて、人でも動物でも皆整殺さるゝ、夫故優樓頻羅迦葉は久しく此室を用ゐず唯火の神聖なる力を以て之を屈することが出來ると信じて之を祭りてある次第である、そこで其の譯を佛に話して之れに宿する

は頗る危険なることを告げ汝のみでなく我までを害さるべしとて兎ても之を聽き容れぬ、佛は三度まで之を請ふて遂に其許しを得、手に自ら一把の草を把りて火神の堂に入り、草を鋪き、上に僧伽梨即ち法衣を布き、結伽趺坐して端然として動かずに居られた、其寂然として禪定に入られたる有様は大磐石の横はりである如くである、時に彼の毒龍外に出で、食を求めて火堂に還り來りたるに、佛が其中に居らるゝを見て、何人か忽然我室に入るものとぞ、既に意を惡しくし、即ち毒害を興し、口より銜を吐きて、佛に向つた、佛亦三昧に坐して、身より亦銜を放たれた、龍は此銜を見て益々腹を増し、猛火炎を放つた、そこで、佛も亦火光三昧に入りて身より大火を出された、此の如く佛と毒龍とが各猛火を放つた、彼堂は火炎熾んにして恰も大火聚の如き有様であつた、其様子を優樓頻羅迦葉が遙かに眺めて、惜むべし、大沙門毒龍の爲めに燒害せられたと考へた、清旦に至れば釋尊手つから鉢を擎げ、從容として優樓頻羅迦葉の所に來られた、然るに彼の毒龍は縮み上りて小くなり、鉢の中に横はりて居つた、

佛、上記の不可思議なる事實は如何にしてみるべきや、もとの、元來、此三迦葉等は苦行を貴び、此の如き稍く神通的事實を貴びたものである、隨て彼等の貴ぶ點に於て彼等の及ぶ能はざる様な事を示された次第である、佛本行集經中に此事實の記載中に於て事實に伴ふ精神状態を描きてある、即

ち、もと、此毒龍なるものは、優樓頻螺迦葉の弟子の一人であつた、一日下痢の病に罹り、草庵を穢した、然るに其他の弟子輩が大に嘔りて之を逐ひ出した、夫故彼の病人は頗る之を怨み、命を終りて彼に復讐せんと考へ、遂に毒龍となりて其草庵を見舞ふた次第である、然るに單に火を以て之を對治せんと考ふるが故に、毒龍も亦毒炎を以て之に報ゆる次第である、畢竟、怨に報ゆるに怨を以てし、怒に對するに怒を以てするのである、此方法によりては、如何に其行力か優りて居りても敵手が油然として感化せられ、渙然として氷解することとは出来ぬ、此は吾々の經驗上より寧ろ味ふべき點である、彼の時毒龍は口に毒炎を吐きて火堂四面一時に炯然として熾んとなつた、佛も身より火光を放たれたが、寂然不動の定中より出づる清淨の光である、慈悲の明である、夫故四方か火たるにも拘はらず、佛の坐して居らるゝ處は寂靜にして火光を見ず遂に佛の所に至り、身を踊らして佛の鉢中に入つた、其時の偈がある、曰く、若し人百千億萬歳、一心に此火神を祭祀するも、彼盡断じて瞋を去る能はず、如今勝世尊の忍辱あり、一切天人世界の内に、唯世尊大丈夫あり、諸の瞋患の重病に纏はるゝものに、世尊能く忍辱の藥を與ふと、即ち此神通的濟度の事實より抽象し來れる精神的教訓は左の如くである、抑も人が瞋患の火炎を吹きて我に向ふときは、我亦瞋患の火炎を以て報ふべからず、我は忍辱を以て瞋患に對し、

禪定を以て精神を確かにせよ、彼必ず其德に化せられ、彼遂に自己を愧つる様になると云ふ事である、所が今日吾人中中之れを實際に行ふことは困難である、慷慨義に赴くは安く從容死に就くは難し、一旦事あるに臨み、奮然として身を擡て大義の爲めに自己を犠牲に供することは、割合に難事でない之に反して平安無事の、人間界に處して、瞋患の火、貪慾の水の間を涉り往く事は随分困難である、人瞋患を以て我に向ふときは、勢、我瞋患を以て向ふ様になる、否、甚しきは我先づ瞋患の炎を吹きて、他の瞋患を挑發することすらないとはいへぬ、此の如き場合に、一事件、一談話、毎に、從容として忍辱を以て、正しき道を行くことは頗る苦しい、極端なる形容を須ゆれば、一寸切りに自身を刻み去らるゝ心地がある、故に此毒龍濟度に關する精神的教訓も、若し自己が佛陀の地に立ちて、佛陀の如く行はむとすれば中々困難となる、そこで私は、寧ろ、毒龍炎中に從容端坐して居られた佛陀夫自身の大なる忍耐心、大なる慈愛心、大なる清淨心を感佩する、我信界を白狀するに、此際先づ他が瞋患を以て向ふと否とを顧みず、滿天下火炎たるも獨り佛陀の慈光あり、吾吾は之に感泣すべし、之に安住すべし、而して、翻て他人に對せよ、我進んで佛陀の地に立つ能はず、佛陀は我を將て其膝に坐せしむ、我周圍にある佛陀の慈光は自ら他の瞋患を消し、佛陀の悲心は自ら他の害毒を和融せしめ玉ふべし、獨り

此方法によりてのみ、今日猶此精神的教訓が生きてある。

優樓頻螺迦葉は自信が強みとも言へるが兎角強情な人である、故に彼以爲く、此大沙門、大神通を有するも猶羅漢果を得ること我今の如くなるを得ないと、されど佛は親切に辛棒強く色々の神通不思議を示された其數五百に至つた、されど其度毎に沙門猶陀羅漢果を得ると我今の如くなるを得ずと考へた、あまり氣が附かぬ故最後に至り佛は斷乎して言はれた、迦葉、汝、今阿羅漢に非ず、亦阿羅漢道に入らず、而して汝實に阿羅漢の相なし、况んや復た阿羅漢の果を得るをやと優樓頻螺迦葉大に慚愧の心を生し、身毛卓堅して佛の足を頂禮し、忽ち佛道に入つた、直ちに我五百の弟子に向て曰く汝等我に従ひ此處にありて此室室器を用ゐたり、各汝の意樂に従て用ゐよ、我今大沙門の所に往きて梵行を修すべしと五百の弟子も亦隨て佛道に入らむことを請ひ、乃ち共に佛の所に往きた、元來強情なるものは一旦決心すれば固い、乃斷然、從來用ゐたりし鹿皮の衣、軍杖、頭髻、及び火を祭る時用の器血、種々の調度など悉皆尼連禪河水中に擲ち去つた、すると、下流岸上に修道して居つた那提迦葉、伽耶迦葉の二人の弟が之を見て悚然として恐れて曰く、咄々異事、我兄は賊に害せられたが他人に殺されたか何か不幸起りしに相違なしとて各直ちに駆けつけたが、兄の有様を見て、皆弟子と共に佛道に入つた、此に於て迦葉兄弟三人と其弟子一千

人とは同時に手を連ねて佛道に入り祭火と苦行とを捨つること恰も蛇の故皮を脱するが如くであつた實に潔き改宗者である。

釋尊はウルピルワ聚落に多少止りたる後彼の一千人の弟子を伴ひ伽耶に向ひ、象頭山(Carlsberg)に於て彼等の爲に法を説き玉ひた、抑も佛は法を説き玉ふに適切なる眼前の事例を探りて、人心感動を興へられた、前の耶輪陀一群の説法の時、屢々浴衣の喩が反覆されたは、蓋し商人にして常に此等の品物を扱ひ慣れて親しかりしが故である、而して今は『火の説法』と稱して人生の細大となく慾火の熾然はつゝあることを示された曰く、汝等比丘よ、今應に知るべし、此一切法は皆悉く熾然はつゝあり、眼は熾然はつゝあり、色も熾然はつゝあり、眼識も熾然はつゝあり、眼觸も熾然はつゝありて眼觸に因て生ずる者、有受、若し苦、非樂非苦は亦熾然はつゝあり、何を以て熾然ゆるや慾の火を以ての故に煩惱熾然はつゝあり、耳は熾然はつゝあり聲も熾然はつゝあり、鼻、香も熾然はつゝあり、舌、味も熾然はつゝあり、身、觸も熾然はつゝあり、意、法も熾然はつゝあり、汝等比丘よ、若し多聞の人ありて能く是の如く深く觀察する者は彼能く、眼を厭ひ、眼識を厭離し、眼觸を厭離し乃至意法を厭離し、若くは意觸によつて生ずる所の者、若くは樂、若くは苦、非樂非苦彼亦厭離す、

27
2
81

既に厭離し訖りて即ち染着せず、既に染着せざれば即ち解脱を得、既に解脱を得れば即ち是の如く内淨かにして智現じ自ら知るあるべし、と、かくて最終の目的は達せられ、清淨潔白の生活に入り、根本的に再生を遂げ、空竟の理想が實現されたのである。

實に此説法は人生に對する適切なる教訓である吾々は、直ちにかく行ふことはとても出来ぬ、されど既に業に空竟の理想を實現された佛陀の懷の中に抱かれてみれば、一一の御言ばがひしくと吾々の胸に響き渡る想がする

教 界 彙 報

●新法主

大谷派新法主には自今東京に滞在し、大に修養せらるゝことに定りたりといふ。

●大菩提

會の京都本部にては来る廿五日より妙心寺に開會する、各宗管長會議の準備として、佛骨奉安殿建築選定地に關する役員會の意見を一定するの必要ありきて、去る十一日役員一同を會して協議せしに全會一致にて京都説に決したりといふ、定めし名古屋説の有志家は躍起となりて運動せらるゝことなむ。

●曹洞宗

にては来る九月より教導講習院を開設し、高等の布教師を養成する由にて、入院資格は同宗大學林卒業及び之と同等の學力あるものに限り選抜試験を以て三十名を入院せしむることになり、入学の上は毎月十圓つゝの學費を支給する由。

●古社寺

内務省は昨日全國各廳府縣に對し、特別保護建造物に指定せられたる建造物に對し、保護上必要ありと認めたる場合は、明治六年教部省第十三號神社制札に準じ制札を建設すべし、制札には左記禁止條項に準じ、該當社寺の意見を徴し保護上必要と認むる條項を掲ぐべき旨訓令せり

古 令

オーベルリン (下)

待 山 生

いくら骨を折て見ても、土地から獲るところは凶年でなくとも、かつ口を糊するに止まり、交通の障礙は、時に稼ぐべき仕事を得るに由なからしめ、日常の衣食に追はるゝの急なる、稍々高尚の部に屬する生活の目的は、措て之を顧みるの道がないといふ状況では、是即ち、精神の發展に必要なる外的基礎を欠いて居るので、斯ういふ處には縱令宗教を扶植して見やうとしても、永く其効果を見るときは、到底覺束ないといはなければならぬ。オーベルリンが牧師となつて來た當時、スタインタールは即此の状況にあつたので、彼が其の住民を教誨し又教育に依て精神的に教導すると同時に農業に、工業に、將た交通に、諸般の經濟的經營を施して、大に資財の道を開くに努めた所以は、是れその病の目り來る所を推して、之が救治の等閑にすべからざるを知つたからである。而して彼が之を爲す上に於て、其の外的行動の總てを信仰の發動に外ならずと思惟した中に、深い宗教上の意味が籠つて居るのである。

一、建物に汚漬又は毀損すること
一、喫煙を爲すこと
一、猥りに火を用ゆること
一、土足又は履物の儘上ること
一、建物に樂器等すること
一、建物に廣告の類を貼付又は打付ること

●日蓮宗

各派管長は去る四月開宗第六百五十年記念大會を舉行したる際、全國宗徒大會を開き十七條の事項を決議したるの中

- 一、聖祖門下各宗派の合同統一を謀り之が實行を期する事
- 一、日蓮宗顯本法華宗の合同を速に實行する事
- 一、決議實行期成同盟會を組織する事

の三條あり元來日蓮宗聖祖門下の各宗派は

日蓮宗(舊一致派)、不受不施派、不受不施講門派、本門宗(元興門派)、富士派(元富士派)、法華宗(舊本成寺派)、本州法華宗(舊本隆寺派)、顯本法華宗(舊妙滿寺派)、本門法華宗(舊八品派)、

の九團にして、其後紀念大會の委員は相分て各團の要路に在る人々を訪問し、且つ各派管長に向て『宗門一大事勸告書』なるものを呈して合同の必要を説きしに、何れも賛成の意を表し、殊に日蓮宗管長演進日師、顯本法華宗管長藤乘日遊師の如きは大に喜んで此の事を迎へ、機運漸く熟し來らんとする形勢なるより、茲に顯本法華宗の關田發教師等主任となりて顯本と稱する雜誌を發刊し、その紙上に於て益々合同の急務と合同の方法とを論究し、機を見て實行に着手する筈なりと云。

●教育會

西本願寺にては教育機關の爲め教育會を組織し、門末中より若干の評議員を選任し、派内に於ける教育上の會議を毎年開會することに内定したり、同會設立の上は第一に從來の各教區に於ける教令調定の改正、夏安居規則の改正等を議定する筈なり。

●暹羅國

同國皇太子殿下には、来る九月中旬本邦に御立寄の御豫定なりしが、英國より御歸途米國御滞在に長日時を要せらるゝに付き、來十一月初旬に御來朝御延引の旨、其筋に通照ありたりと云ふ。

彼は就任の當初より壇上に立て説教するに際し、其の眞摯なる信仰から、時々信徒の家内の生活、相互の交際の實相に就て論じ、一々神の言に照らして其の欠點を擧げ、以て其の改むべきを戒告するがあつて、熱心の餘り、或は人名を指摘するときは憚らなかつたので、一時大に教團の一部から憎まれて時には暴行に遭はふとしたともあつた。或る日曜のであつた、彼を禮拜の歸途に要して毆打しやうといふ目論見のあるとを聞知した。すると、彼は俄かに當日の説教の題目を變へて、馬太傳第五章三十九の不正を忍ぶべしといふ堪忍の一條を説いた。やがて説教が濟むと、夫の要擧しやうといふ連中が一つになつて、彼れ教師が果して其の説教通り行ふや否や、即其の右の頬を打つたら左の頬を出すかどうか、實驗しやうではないかといつて笑嘲つて居た。所へオーベルリンが突然彼等の中に現はれて、私はここに居る、貴等君の御考は譯つて居る、私が貴君等を侮辱したといふなら、罰せられても苦しくない、私の體は貴君等に御渡ししやうから、待伏などといふ見ともないとはなざるに及ぶまい」と落着拂つていつたので、彼等は、一は彼の度胸にのまれ、一は彼の公明に愧ぢて、己等の無禮を陳謝したといふとである。斯ういふとは一度ならず再三再四あつたが、彼の至誠は遂に其敵をして必服せしむるの力があつた。

初め彼は、教團内には誰一人相談相手とすべきものもな

つたので、折々スウィーベルをストラウスブルヒに訪ふて、何かと談し合つて居たが、千七百六十八年、マグダレーチ、サローム、ウィッターと結婚をして、こゝに憑依すべき補助者を得た。ウィッターはよく夫の心事をのみ込んで、萬事につけて其の手助けとなり、殊に其の敵を懐柔する上に於て、力に於て其の力を致した。而して最も長くオーベルリンの補助者となつた者は、ルイゼ、シエブラーといふ女で、彼は千七百七十九年以來、オーベルリン方に下婢として住込み、千七百八十三年、ウィッターが七人の子供を残して亡くなつた後も、よく其の面倒を見、一切の家事を一身に引受けて世話し、オーベルリンの死に至る迄都合四十八年の間、最と忠實に仕へ、同時にまた一方にはオーベルリンの創設せる幼稚園の教師として五十八年の間働いた。抑もこの幼稚園なるものは、スタインタールでオーベルリンの初めたのが其の濫觴で、是れ全く彼の社會的活眼に因て發明されたものといふべく、夫の『愛は人を發明的にす』とは、實にこの幼稚園の縁起に付ても亦思ひ合はされる言である。而してオーベルリンをして幼稚園の發明者たり實行者たるの名譽を擔はしむるに至つたに付ては、其の妻及び下婢シエブラーの力が大に與へたのである。

當時エルザスの界限でスタインタール程農事の荒廢して居るところはなく、またスタインタール程貧乏のところはな

價を以て村民に譲つてやる仕組を立て、又は若い者を他に出して大工、佐官、指物、裁縫等の業を練習せしめ、良い職人を養成するなど、村の爲めにいろいろの經營をしたが、中にも彼が非常に盡瘁したのは、スタインタールと他地方との間の交通の便を開くことであつた。一日彼は村民を呼び集めて、本街道とスタインタールの間に新道を開き橋を架けては何うかと發議した。所が村民は此の大設計を聞いて暫くは呆然たる体であつたが、口を揃へて其様などはとても自分等の力の及ぶ所ではない、道普請などするよりは、他にするとがいくらかもあると云つて、様々に利害を説き論じたけれども、どうしても應じなかつたので、これでは行かぬと彼はまた一策を案じて道路を布設すべき處にある地面を、それとなしに買込んで、或日のと自から、齋齋を手にして新道の開設に着手した。所が此奇策はまた忽ち功を奏し、村民は之を見て牧師の公益の爲めに盡す親切の深さに、且感じ且愧ぢて手にいろいろの道具を持って馳せ集つた。そこで、オーベルリンは夫れ／＼部署を定めて適宜の處に人を配置し、自分は其下男と共に最も困難にして、最も危険なる仕事に當るとした。かくて數月の後、遂／＼新道も出来上り、次で『愛の橋』といふ橋も落成したので、こゝに初めて本街道との連絡が完成された。この事業の成功してからは、オーベルリンの聲望が殊の外高まつて、爾來彼の希望する所は一も二もなく村民の

つたので、オーベルリンは何うかして之が改善救治の道を講じたと思つて、種々農事改良の方策を説いて見たが、村民は皆馬耳東風に聞き流してしまつて、一向取合はて呉れるものがない、そこで彼は先づ自から其實例を示すに如かずと考へ、往來の繁げしい路傍にある牧師附の地面に、諸種の穀物野菜及び菓實の結ぶ樹木などを植付け、同時に又自分の園の一部に植物園を設けた。村民は之を見て、こんなとして何うなるものかと竊に嘲笑を洩らして居たが、扱ひよく成熟の季節となつて見ると、頗る美事の出来で、とても己等の作物とは比較にならないので、今度は急に風が變つて、誰も彼も争てオーベルリンのところへ来て、方法の傳授を乞ふ様になつた。で、オーベルリンは固より望む所であるから、喜んで彼等に教へ、且種苗なども分けてやつたので、忽にして村内到る處、從來と耕作の形況が一變するに至つた。殊に彼が、從來村民の一向に頓着しなかつた肥料利用の改良を計つたとは、一般農業の上に著しい進歩を促した。

彼はまた大に牧畜を奨励し、一面には、毎年最良の牛を養成した者に、自費を以て一定の賞金を與へるとし、之に依つて競争を喚起し、以て斯業の發達を計り、他面には、川の底を深くし流れを正しくして、從來沼の様になつて居た岸邊を乾して、其處に上等の林の種を蒔いて、大に牧場の收獲を増加した。尙彼は農業用の器具を一時に澤山買込んで置いて原

容るゝ所となり、何事も『教師オーベルリン』の云ふがまゝに決する様になつた。

斯ふ言ふ様な次第で、スタインタールでは見る／＼一般の富が高まつて、一寸住居にして見た所で、従前は穢い、低い粗末な小屋ばかりで僅に雨露を凌ぐ丈のものであつたのが、今では段々と小奇麗な、廣い石造の建家と變つて來るといふ勢を呈した。併しかく一方に經濟が賑々として發達の域に進むと共に、他の一方には年々盛んに人口が増えて行つて、終には單に田野の収入のみでは、十分に住民全体を養ふに足らない程になつた。そこで、オーベルリンは之が救済策として、村民をして仕事のない時、殊に冬季に於て、大に綿糸製造の業に従事せしむるとした。で、村民は之が爲め年々凡三萬フランの賃錢を得るとなつたので、また生計に窮する様などはなかつたが、漸次附近の町村で斯業に器械に用ゆる様になつてからは、爲めにスタインタールの如き手仕事でやつて居るところは忽ち懸倒される危機に迫つた。スタインタールが幸に此危機より脱するとを得たのは、瑞西の富豪ラグランド一家がこゝに移住したからで、而してラグランド一家の移住したのは、これまたオーベルリンの依頼に基いたのである。抑もこのラグランドといふ人は絹紡績工場の持主で嘗て瑞西共和國の統領ともなつたのである、至て公共心に富んだ、且極信仰の篤い實業家であつたが、歸らずもオーベル

リートの息子から、父のスタインタールに於ける事蹟を聞いて、態々オーベルリートの許に訪ねて来た。所が二人の相見ると、忽ち意氣相投合して、一見舊知の如き概があつたのでオーベルリオンはラグランドに對してスタインタールの目下の急を訴へ、ラグランドは之を聞いて大にオーベルリオンに熱心に感激し、これ神の己れに命じ玉ふ所であると考へて、斷然其工場をスタインタールに移し、一家を擧げてこゝに住するとした。爾來彼は力の及ぶ限りオーベルリオンを助けて其最も有力なる補助者となつた。

上來述べたもの外、オーベルリオンは計畫した公益事業はまだいろいろのとがあるもので、今其の二三を擧げて見れば或は自己の過失なくして困窮に陥りたる者に、無利息で國要の金額を貸與し、一定の時期毎に其幾分宛を分けて支拂はしめる方法を立て、或は貯蓄又は債務の支拂を容易ならしめんと爲めに、定期に小額を拂込せしめる、貯蓄及び辨済金庫の制を定め、或は貧民金庫を設けて窮民の救恤を計り、或は襁褓等の廢物を集めて、之が利用の道を講じ、或は農事協會、補習學校を起して、實業上の智識の普及を計る等は其の重要なものであつた。

斯くオーベルリオンは何異となく教團の福利の増進に付て斡旋したが、之が爲め或は其本務たる教誨の方を却て御留守にする弊に陥りはしなかつたかといふに、決して其様などは

すやうに行ふべし」といふ使徒の命令を嚴守し、「何事も神なしに行はず、凡ての事を神の爲めにす」といふを以て其の主義としたものと謂つべきである。夫の巴里農業協會の彼に金牌を贈りたる、佛王ルイ第十八世の彼の名譽軍隊の騎士に任じたる、露帝アレキサンダーの彼を推重して嘆賞措かざりしといふが如き、皆是れ彼の生前に於ける名譽の表彰である。而して千八百七十一年にポツダムに傍なるノワウエースといふ處で、幼稚園の設立、救護婦養成を目的とする會が出来たとき、幼稚園創設者の榮譽の爲めとして、其會を「オーベルリオン協會」と名けたるが如きは、彼の名の永く忘れられざるを示して居る。

彼の死んだのは千八百二十六年で、所謂考妣を喪するが如しとは、彼の葬儀に於てこれを見ることを得た。彼の墓所に建てられたる十字架には「父師オーベルリオン」としてあつて、其下に横はる墓石には「衆多の人を義に導ける者は、星の如く長に照らすならん、彼は五十九年の久しきスタインタールの父たりき」と誌してある、よく簡にして盡せるものと謂ふべきである。教會史家ハーゼが彼を評して新教々會の聖者といつたのは真に以ある言で、實に彼の生涯は、貧夫をして廉ならしめ、懦夫をして立たしむる概がある。余がこゝに彼の小傳を紹介した所以は、彼の主義行動の、慥かに我が今日の宗教界に採つて、他山の石たる價值あると信ずるからである。

なかつた。全体、彼の心は神の愛を以て満たされて居たのであるから、彼の言行は、其外的たると内的たるとを問はず、共に是れ一の信仰なる源泉より流れ出たもので、彼がスタインタールに設けたる宗教談話會、聖書講習會等に於て話す場合は勿論、例へば純然たる經濟的事項に就て語るにしても、常に其の宗教的方面の關係を指示して、人の注意を促したとは、彼の演説、手紙等を見ても明かのとである、今其の例として、彼が村民に路傍の樹木の植付を慫慂した告示を見んに「親愛なる友よ、萬物の敵たる魔王は吾人の破壊し絶滅する行動を喜ぶ、吾人の主、耶穌基督は之に反し吾人が公益の爲め働くを喜ぶ、卿等は皆彼に依て幸となり、彼の名譽の共有者たらんとを望む者なり、されば卿等が此世に生存する間は出來得べき限の方法を以て、彼の意に副はんとを求むべきなり、卿等が愛の心よりして、一般の利益の爲め樹木を植うるは彼の意に叶ふとなり、今や其の季節なり、卿等は各其準備して怠るとなかるべし、記憶せよ、卿等は之に依て彼の意に副ふものなることを、卿等の路を好き有様に於て維持せよ、而して之を修飾せよ、卿等の有る數本の樹を此の目的の爲めに使用せよ、而して其の發育に注意せよとある。是に依て之を觀れば彼の外的事業に盡瘁するは、即是れ生ける宗教其物の扶植に外ならぬと知られるのである。之を要するに、彼は「食ふにも、飲むにも、何事を行ふにも凡て神の榮を顯は

社 會 小 觀

▲救世軍 例の軍隊共が三十五名の軍勢を引連れ吉原に入り込み「さきの聲」をいへる雑誌を配布し、自由廢業の要旨の演説を初めたる爲め、廓内の若者共と争論の結果、兩軍入り混れてしばしば程較ひたるが、漸く警官の手によって鎮撫せられたるが、救世軍方には負傷者も出來頼た災難を被りたりといふ。

▲總選舉 今回の總選舉に全縣下を擧げて新人物を選出したるは、静岡、奈良、岐阜、山梨の四縣にして、市部に前代議士を擧げて郡部全体の新選を見たるは高知縣なり、又新潟、岐阜、福井、千葉、愛媛、鳥取の六縣は郡部に一人の前代議士を選出したるのみにて他は悉く新選出者なり、香川県は市部及び郡部に前代議士各一人を存するのみにて他は皆新選出者なり。

▲各黨派 の當選者を見るに政友會總數二百名近く、憲政本黨は百二十五名なりといふ。

▲警視廳 には近時部下學生の風儀日に頹廢に赴き、常に花界に流連し酒色に沈溺するのみならず、居常兇器を携帯し些末の事より亦傍に及ぶこととせしめ、警風堂に服すべきものあるを以て、是等學生に對し嚴正なる取締を爲す様、各警察署に内諭し又一面には是等多くの粗暴學生の在職せる中學各私立學校に對しては、從來浴し來れる特典を剝奪する等の制裁を設くる様文部省に向て交渉を開始せり。

▲五百圓 を白晝に掻き握られたるものあり、即ち某店の雇人が第一銀行より五百圓を取りて、歸途江戸橋まで來りしに、年齢二十六七の商人の男不意に背後より其金を横奪し去りたりと、大膽不敵のしれ者なる哉。

▲職工の 同盟罷工に付ては、曩に吳海軍造船廠の職工に一大同盟罷工の舉ありしが、今又小石川なる陸軍砲兵工廠職工是に隨いて同盟罷工を企て目下動搖中なりといふ、不景氣の今日彼等は不如意の活計向にて且つは平素長官の苛酷に困しむるあり、遂に彼等の不平を暴露するに至りしなり。

▲清國の 留學生等は公使の保護なき爲め、官立學校入學を許されざるもの約百名あり、是等の學生は毎日爲すこもなく徒食し居るに過ぎずして度々公使に保證の下附を請求するも言を左右に托して下附せざるより止むを得ず斷然歸國することに決したる由にて他の私費生三百餘名も非常に向情を哀し頻りに

慰撫し居るとの事なるが、清國と國際間の關係益々密ならむとする今日かゝるこ
 とあるは洵に悲むべき事なり
 ▲江原素 六氏は耶蘇教信者たるを以て落選し、竹越興三郎氏は佛敎
 徒を標榜して當選しぬ、落選したる江原氏は其主義に於て敢て疚しき事なかるべ
 きも他年基督敎徒たる竹越氏に至りては定めしれざめの悪しき事なるべしといふ
 ものあり、眞偽如何にや

一金壹圓也

伊勢 中村 元次郎殿

累計二百七十四圓四十八錢

右本會基本金中へ御寄附被下候段謹で厚意を謝し申候也

八月

大日本佛敎徒同盟會本部

老川遺稿出版に關する決算報告

収入の部

一金貳百貳拾圓

寄附金總額

一金九圓九拾八錢九厘

右 利 息

但し明治三十二年十二月より明治三十四年十月に至るまで寄附金の領收額
 金拾圓に達する毎に日歩壹厘六毛の割を以て計算す

一金拾七圓九拾五錢

遺稿賣上金

一金四拾八錢

右 利 息

但し賣上金拾圓に達する毎に日歩壹厘六毛の割を以て計算し本年七月三十
 一日に至る

收入合計金貳百四拾八圓四拾壹錢九厘也

支出の部

一金八圓三拾六錢

老川遺稿會新聞廣告料

一金百九拾九圓七拾五錢

遺稿印刷製本費

一金貳圓貳拾錢

寄附金人名簿印刷費

一金九拾五錢

遺稿添附書狀印刷費

一金拾貳圓五拾八錢

遺稿運送費

內譯 金七圓九拾貳錢

郵税

金四圓六拾六錢

市内配達及通運

一金貳圓八拾六錢

校正及諸交渉用郵税

一金一圓四拾錢

筆耕料

一金七拾貳錢

狀表紙發送用糸類

支出合計金貳百貳拾八圓八拾貳錢也

差引剩餘金拾九圓五拾九錢九厘也

右剩餘金は今後收納すべき見込の遺稿賣上金と共に保管し他日老川兄の遺志
 に副ふべき方法に費さんことを期す

右之通ニ候也

明治三十五年七月三十一日

老川遺稿出版主任 杉村廣太郎

右計算書の精確なることを申認す

明治三十五年八月

佛敎清徒同志會々計代理

高 島 圓